

# どんびま

2006年8月3日発行

発行者 花の湖農業小学校

## 草刈

営農組合の共同防除の予定も近づいて水田の畦草刈をした。長雨の日照不足に喘いでいる野菜を尻目に、雑草だけは元気がいい。

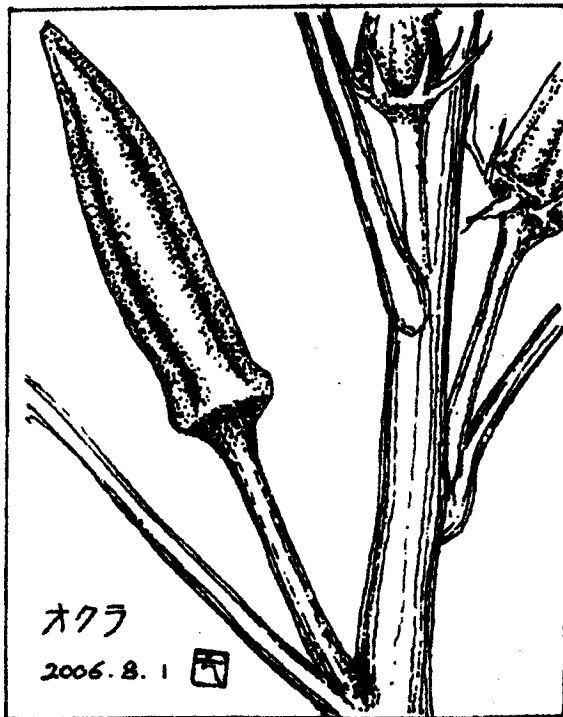
いつも草刈をして、かみさんに叱られる(?)ことがある。花の咲く草を残すからだ。かみさんの言うとおり、残した草はアブラムシなどの集団のアパートになる。

草を刈るのにも、ちゃんと意味がある。見た目を綺麗にする、風通しをよくする他に虫除けの意味もある。飛翔力のないスリップ類などは田畑の周りの草を伸ばさないことで防ぐことが出来る。電気牧柵は草が伸びて電線に触れると、アースされた状態になって効果が無くなる。草刈が一番の管理作業なのだ。

分かっちゃいるけど...残している。ネジバナ、ツリガネニンジン、ワレモコウなど。

花は黙って、疲れた体と心を癒してくれる。

(草)



## ～あぼ兄のホラばなし～ 岐阜ラジオ「真夜中のフォークジャンボリー」

梅雨が明け、太陽の照りつける夏が来ると思い出す。35年も前のことだが、つい最近のことのように。

1969～71年の3年間、全国から若者達が花の湖畔に集まった全日本フォークジャンボリー。坂下や中津川市(旧)の仲間達が、何も無い荒れた雑木林の木を切り、石を積み、ステージを作った。チケットから仮設トイレまで、自分達で企画し、運営した。まさに手作りコンサート。しかも、夜を徹した野外コンサートは、全国の先駆けだった。

その全日本フォークジャンボリーの思い出を語るラジオ番組を、農小に5年間保護者として参加して下さった岐阜放送の浦田さんが企画された。8月12日(土)～13日(日)の深夜、あぼ兄は、縹ちゃん、実ちゃんたちと、岐阜放送局へ行って、5時間生出演なのだ。

## 8月授業日のご案内

### 椈の湖キャンプ

日程①8月19日(土)

- 8:30～9:00 受付  
9:00～9:15 始めの会  
9:15～11:00 授業 農作業(白菜の種まき かぼちやの収穫 ほか)  
トマトジュース作り ハム作り 夕食下ごしらえ など  
11:00～11:30 川上川へ移動(自由参加・川遊び希望の家族)  
11:30～14:30 昼食(おにぎり弁当)  
(自由参加)川遊び 鱒つかみ  
14:30～15:00 椈の湖キャンプ場へ移動  
15:00～16:30 キャンプ場チェックイン 宿泊準備 テント設営  
16:30～ 夜店(夕食)準備 (椈の湖農小台所前)  
17:00～ 夜店開店  
18:30～ 紙芝居 人形劇 影絵劇 カプトムシ相撲表彰式  
19:30～21:30 キャンプファイヤー  
21:30～ 椈の湖オートキャンプ場へ移動  
風呂 22:00まで(有料 大人400円 小人200円)

日程②8月20日(日)

- 6:00 起床  
6:30～7:30 朝食準備 朝食(ウッディハウスは荷物を搬出)  
8:00～11:00 (自由参加)もの作り  
染め物  
木工…下駄・健康足踏み・自由課題  
11:00～11:30 後かたづけ  
11:30～11:50 昼食(流しそうめん)  
11:50～12:00 終わりの会  
★もの作りの終わってない方は作業を続行していただいてもかまいませんが、後かたづけはキチンとお願いします。  
★キャンプサイトチェックアウト 13:00 時間厳守

### 《持ち物と注意事項》

<もの作り>

- ・染物教室希望の方(先着50名)  
エプロン ゴム手袋 はさみ ハンガー  
染めたい物(綿のTシャツ、ハンカチなど 一度洗って糊を落とした物)
- ・木工教室希望の方 大工道具 鼻緒用の布(下駄作りの方)

《持ち物》

- ・食器（バーベキュー用皿・コップ・スプーン・箸・水筒など）
- ・寝具（シュラフ・タオルケットなど）\*貸し毛布あり（200円）要予約
- ・イス・テーブルセットがあると快適・便利
- ・懐中電灯
- ・その他キャンプに必要なもの

《その他》

- ・夜店はグループごとに担当してもらいます。全員が交代でご協力ください。
  - 1 グループ……串カツ・フライドポテト
  - 2 グループ……フランクフルト・イカ焼き・焼き鳥
  - 3 グループ……カレーライス・サラダ・ごはん
  - 4 グループ……フルーツポンチ・冷奴農小 O.B.グループ……鱈塩焼き・汁物  
スタッフ……豚丸焼き
- ・貸しテント、貸し毛布の申し込みなどあったら、はがきに書いてください。
- ・材料準備のため、もの作りの希望コースは必ずご記入ください。  
ただし、希望が集中した場合は変更していただくことがありますので、ご了承ください。

参加費 大人・生徒 3000円 幼児 1500円

(1日のみ参加の場合も同料金)

キャンプサイト料金（定員5名） 5025円  
別途 貸テント料金 3500円～ \*要予約  
電源使用料 1000円

ウッディハウス使用料（1家族） 9000円

☆ウッディハウスは、申し込み多数の場合、1棟に3～4家族一緒に泊まっていただくこととなります。そのつもりでお願いします。

☆「川遊び」は自由参加です。

それぞれの親さんの責任でもって参加してください。

☆「もの作り」も自由参加です。

もちろん、何もしないでポーっとしているのも O.K.

材料の準備、道具、持ち物を忘れないで下さい。

◎お問い合わせは ☎0573-75-4417（山内）まで

返信締め切り 8月12日 厳守

## ～とくちゃんの農小レポート～

### 野菜がどっさりだァ

この地方では、沢山とか山盛りとかの表現に「どっさり」と云う方言があります。例年にない程の長雨にたたられていながらも、農小の作物は元気に育っています。これは有機肥料による効果が大きだと思えます。

- \* キャンプの相談。午前中は雨で畑に入れなため、キャンプの話し合い を行いました。例年の如く食事・遊び・物作りと、各グループ代表が三班に分かれ話し合って計画を立てました。
- \* 昼食。カレーライス。カレーは郷土料理では有りませんが、希望者が多かったので甘・辛・中辛とそれぞれ好みに合わせました。農小で出来たじゃがいもの味は如何だったでしょうか。モロッコの胡麻和え、玉ねぎサラダ、きゅうりの漬物。
- \* かぶと虫の相撲大会。例年大相撲名古屋場所中に行われる、かぶと虫の相撲大会ですが、今年は力士の数が少ないようでした。天候不順で育ちが悪かったのでしょうか。今年はお兄さん達の助けを借りないで、5・6年が中心となりルール作りから行司まで、それぞれ担当を決めて取り組みました。大きな歓声や応援で大変盛り上がりました。成績はキャンプの時に発表され、上位には賞品がでると思えます。
- \* 午後の授業。雨間をぬって、にんじん、キャベツ、ごぼう、じゃがいもの収穫を行いました。お百姓さんはじゃがいもは雨の中での収穫を行いません。乾燥した時でないと思悪くなってしまう事があるからです。農小では月に一度のチャンスですから致し方なく収穫しました。
- \* 持ち帰り。今月は盛り沢山でした。にんじん、きゃべつ、ごぼう、そしてジャガイモ。キャベツは勿論のことですが、ニンジンもスライス又は千切りとして生で食べてみて下さい。きっと野菜の甘さを実感出来ると思えます。ゴボウは間引きですからアクはそんなにありません。ジャガイモは洗ってありますので早めに調理して食べてください。

## ～とくちゃんのちょっと一言～

「カラーン、コロソ～、カラーン、コロソ～」というのを音に変えたら何を想像するでしょう？。今年の物作り体験には校長先生念願の、下駄作りを入れる事となりました。健康にも良いと言われる下駄を手作りして履いてみましょう。鼻緒用の布切れ(出来れば柄もの)があれば持参して下さい。下駄の丈(18～24cm)の3倍位の長さで幅5～7cm位の物9本です。

時間が有れば簡単な鼻緒を作って見ましょう。お家に帰ってからでもよいと思えます。

～あぼ兄の百姓ばなし～

## 「イモチ」

昼寝をしていると電話のベルで起こされた。

「林だが」(林さんは、長いこと農小の先生をしてくださり、今年からは、スタッフとして水田の管理をいただいている方だ。)その声と同時にあぼ兄は「出た？」と叫んだ。

この時期に「出る」物は2つある。1つは、昨年、農小の畑のかぼちゃやスイカを一夜にして食い荒らしたイノシシ。もう1つは、稲につくイモチ病だ。今回の「出た！」は、もう1つの方だった。農小が始まって以来初めてのことだ。

イモチ病とは、不健康で垂れ下がった葉に水滴がつくと、そこに菌がついて赤錆色をした斑点が出来る稲の病気(葉イモチともいう)だ。放っておくと稲の生育が止まる。もし、そのまま生育し穂が出ても(穂首イモチといって)穂の下に菌が付くと、黒くなって枯れ収穫はなくなる。

対策は、早急に葉イモチ(病菌)を抑えること。隣の田にうつさないこと。発生した上は、自分の稲はもとより、隣の田んぼが心配なのだ。不本意だが、農業に頼るしかない。

イモチ病の原因の1つとして考えられるのは、七月の授業日に話したように、結果的に肥料が多すぎたことだ。収量を上げるためには多量の肥料を施すことが必要だが、その年の気象や水田の状況を考慮しなければいけない。今年の農小の借りた水田は何年か耕作されておらず、こうした水田では施肥量を若干控えるのが普通だ。勿論、それも分かっていたが、あぼ兄の作った堆肥は成分分析もなく結果的に多かった。撒きムラもあった。

もちろん発生には、長い梅雨による、気温、湿度、日照不足なども大きな要因になる。東北地方には、早くからイモチ病の警告が出されていた。まさか梅雨がこんなに長引き、7月の終わりまで天候が悪いとは…。

百姓は、ややもすると、自分の管理の悪さを、他人や天候のせいにしたがる。それは、自分が悪かった、自分のせいだと思い込むとやる気がなくなってしまうからだ。天候のせいにすれば、他人に迷惑をかけずにすむので気が楽になる。生活の知恵かもしれない。

今回は、天候のせいにしよう。

## お知らせ

農小のどんびきを山内酒造のホームページ(<http://www.yamauchisyuzou.jp>)にアップしました。ご訪問ください。

# “あ”だけのカルタ

4グループ 加藤弘之

朝の会が始まる頃、安保兄から「ダンボールを運んで来て欲しい」と言われて、古い農小までスタッフの富田さんと取りに行った。

軽トラックで古い農小に着くと、あっと驚く風景が広がった。2年前まで使用していた広場には、子供の背丈程のヒメジオン（キク科）がびっしりと生え、荒れた原野に戻っていた。人間の手が入らなければ、たった2年で荒れ果てる。

古い農小の広場に日本の農業の現実を見た想いがする。

ヒメジオンは栄養分の少ない河原にも生える。子供の頃、枯れたヒメジオンを弓の“矢”として飛ばしていた。そのヒメジオンの勢力圏も数年経てばクズに奪われる。クズのツタがはびこると、もう手に負えなくなる。クズがあらゆる植物の上に覆い被さり、日光の届かない下の植物は淘汰される。自然の成り行きである。

野菜も元々、自然界にあった植物の味や収量を改良したものだ。その野菜に農薬を散布したり、除草剤をまいたりするのは、やっぱり自然ではない気がする。

幸い、椀の湖農業小学校は、農薬等は一切使用しない農法である。だから、ここで作る野菜は虫の被害にあって全滅の時もある。これも自然の成り行き。

ニンジンの収穫の時、一本だけ白ニンジンが穫れた。これも自然の成り行きか？同じように撒いた種から、何故一本だけ白いニンジンに成長したのか？

自然農法の農小で突然異変発生！一本の白いニンジンは何を物語るのか？ところで、このニンジンが誰食べたのだろうか？今ごろ、その人は突然異変で顔が白くなっていないか心配だ。安保兄が食べると調度良かったかも知れない。

さて、ダンボールの話に戻すが、安保兄の倉庫には新品のダンボール何百枚もあり、大きなサイズは畳位ある。運んで来たダンボールを見て「これでカルタを作ろう！」と安保兄が言った。冬になったら農小の畑に雪が積もる。

真っ白い雪の上に畳サイズのダンボールのカルタを

置いて皆でとる。スケールのでっかい面白いアイデアだと話していたら、横から總ちゃんが「全部“あ”だけのカルタにしよう」と言った。全部“あ”だから、字を見ただけではとれない。絵に頼るしかない。

しかも広い雪の中。長靴が脱げて雪だらけになって考えるだけで笑えてくる。

絵は安保兄の顔にしよう。黒い顔だから白い雪の中ではとり易いかも知れない。ダンボールでカルタとり早くやりたいが冬まで待てないから農小のキャンプで、このデカイダンボールを使った紙芝居をやろう！名付けて「デッ紙芝居」。さあ！暑い夏の夜これからダンボールに紙芝居の絵を書こう！

